

1.5km沖から撮影した福島第一原発



写真提供: 鈴木譲

たらちね海洋調査

『たらちね』の事業のひとつである「たらちね海洋調査」は、2015年9月から始まり、2018年10月30日の今回は12回目の調査になる。3ヶ所の定点で海水と魚を採取し、ガンマ線核種のセシウム134・137だけでなく、ストロンチウム90、トリチウムといったベータ線核種も測定し記録してゆくのが特徴だ。今回はいつもの福島第一原発沖1.5キロでの検体採取ではなく、比較のため福島第二原発沖での調査であった。

海水採取はたいへんな力仕事で、揺れる船上では困難な作業だ。魚の採取もとても難しく、ボランティアの海釣り愛好者をお願いしている。また、船長との呼吸合わせも重要で、これも回数をこなさないと難しい。「定点での海水と魚の採取」、簡単そうに見えるが、実際にはかなりハードな作業であることが、同行してみて本当によくわかったと同時に、海の生命力を実感した。

採取した海水と魚を『たらちね』に持ち帰り、『たらちね』事務局長で海洋調査の責任者の鈴木薫さんと、毎回参加している『認定NPO法人高木仁三郎市民科学基金』（以下「高木基金」）事務局の水藤周三さん

Report

原発事故から7年——福島海『たらちね海洋調査』

文 Misao Redwolf 首都圏反原発連合

福島県いわき市にある『認定NPO法人 いわき放射能市民測定室』（以下『たらちね』）の「たらちね海洋調査」に参加した。福島第一原発からのトリチウム水海洋放出という危機から、美しい福島海を守りたい。

が、放射能測定のための下ごしらえとして、測定に必要な量の魚を切りすり潰す。また、鈴木譲東大名誉教授は、生体調査のために魚の血液や組織のサンプルを採取する。

次世代のためにデータを残す

鈴木譲さんにお話を伺った。「調査の結論はなかなかだせないでしょう。測定して記録する。今後も継続して、後世で活用できるような形で保存したい」「原発については、廃炉に30～40年、トリチウムにしても100年かかって1000分の1になるわけで、そういうスケールの話。私が生きてる間に最後まで見届けられないが、全ての原発をなくすことは絶対必要だ」と力を込めた。

鈴木さんは、1970年代に水産を学ぶ中で原発の危険性に対する問題意識を持ち始めた。福島原発事故が起こったときには怒りに震えた。「原発を推進した者たちは無責任もいところだ。次世代へ負の遺産を残してはいけない」と鈴木さんは憤る。



写真提供: 鈴木譲

定年退職直前の2013年3月に東京で開催された飯館村に関するシンポジウムで福島の人々の生の声を聞き、何かできることがないかと考えた。その後、ため池のコイに対する放射能影響の調査を思いつき、個人的に始めたが、いまだに明確な結論を出せないでいる。海の調査は無理と思っていたところ「たらちね海洋調査」のことを知り、協力しようと決

めた。「高木基金」の理事を務める鈴木さんが、元々、干潟埋没問題や自宅近くの地下道路の反対運動など、社会活動をしてきた。「こちら側に立って活動できる次世代を育成しないといけない。『高木基金』の理事として、いろいろ提案したい」と語る。

危険な核種トリチウム（三重水素）

鈴木薫さんに、海洋調査を始めるきっかけをたずねた。2013年に、北海道がんセンター名誉院長の西尾正道さんと知り合った。放射線の専門家である西尾さんは、トリチウムのことを心配していた。原発からトリチウムが漏れているので計測しなければいけない、トリチウムは海中の食物連鎖で凝縮されていくので、魚も危険な状態になってくる、海水分析でトリチウムは重要であることを教えてくれた。

水素であるトリチウムがヘリウムになると、染色体の二重螺旋を結合させる水素結合力が失われ、染色体が破壊される。トリチウムを大量に放出するカナダの原発の周辺で、小児白血病、新生児死亡、ダウン症などが多発している事実などを、西尾さんは著書や講演会などを通じ警告している。しかし、トリチウム水海洋放出を目論む政府や東電は、トリチウムは安全だというプロパガンダに余念がない。

セシウムやストロンチウム90だけでなく、トリチウムの危険性も知り、『たらちね』では海洋調査を始めることにした。開始までには様々な困難があった。鈴木薫さんは地元の漁師の漁船で実施することを考えた。調査をするだけでなく、地元の漁師たちにも協力をしてもらうことで、地元で、対話の和を作ることができると考えたからだ。地域の漁



NO NUKES! ENERGY AUTONOMY!



記事の全文はこちらでご覧いただけます
<http://coalitionagainstnukes.jp/?p=11756>

「たらちね海洋調査」の測定結果
<https://tarachineiwaki.org/radiation/result>
『認定NPO法人 いわき放射能市民測定室たらちね』公式HP
<https://tarachineiwaki.org>

協に協力の相談をしたがなかなか進まず、何度もアプローチをして漁師とのコラボが実現した。

「たらちね海洋調査」からみえてくるもの

水藤さんに印象的な出来事を尋ねた。「毎回、地元の釣り好きの青年たちが参加していて、その時に「この人たちは慣れているのか」と疑問に思いました。漁業者は不十分ながらも賠償の対象になっていますが、釣りなど海での趣味を喜びにきた人たちはどうか。家庭菜園や山菜採りが賠償の対象にならないといった話がありますが、海でも同じです。しかも、陸地の汚染以上に、海の汚染はわからないことが多い」。

鈴木薫さんは語る。「測定の活動は化学的で理料的で、心の動きがみえないような印象を受けがちですが、実は人の心と共にある活動なんです。地元の漁協と連携して活動することにも、大きな意義があります。回を重ねるうちに人の心の輪ができてきて、それがみえてくるんです。共働することで話題が共有できることは地元ではすごく大事なので、地域のかたにもっと参加していただきたいですね」。

「11月4日に地元で開催するトリチウム水海洋放出についての市民シンポジウムに、福島県漁業協同組合連合会の会長や、小名浜の魚屋の女将がパネラーとして参加くださいますが、『たらちね』のこういった動きが役に立っているようです。海洋調査は今後の問題も色々あるし、結論は私たちの世代ではだせないかもしれませんが、測定を続けながら、人材育成にも重きをおきたいと思います」。

On The Road

— Photo —

1111原発ゼロ☆国会前集会！

— 原発ゼロ基本法案を審議せよ！再稼働反対！原発ゼロ政権の誕生を！ —

福島原発事故から7年8ヶ月にあたる2018年11月11日に開催した国会前集会は、トーク、ライブともに充実した集会となりました。奇跡的な晴天の下、原発ゼロ社会実現への意思を再確認しました。



Walk and Talk it

利益優先の政府の愚行が地域にダメージを与える——楽曲『港町ブルース』



森進一の1969年の大ヒット曲「港町ブルース」には【函館、気仙沼、御前崎、八幡浜、長崎、枕崎】という地名が登場するが、それぞれ近隣に、【大間（建設中）、女川、浜岡、伊方、玄海、川内原発】が立地している土地である。当時は原発は建設されていなかったのていってみればこの後、「原発立地ブルース」になってしまったのだ。

勝川俊雄『漁業という日本の問題』（NTT出版）によると日本の漁業が衰退しているのは、日本政府の漁獲規制の設定が甘く、親魚を残せていないからである。政府による漁獲枠は欧州と比較すれば過剰であり、漁業者はその年の利益を優先して親魚の分まで獲ってしま

い年々魚の量が減っている、というのだ。

港町が原発招致を選び少しずつ海を汚染させ、再稼働ができなくなればますます経済が傾く。廃炉という新しいビジネスがあるにしろ、目先の利益を優先した日本政府の愚行が地域にダメージを与えている。

デンマークの再生エネ指導者ソーレン・ハーマンセン氏は「安倍政権は原発再稼働で当面の安いエネルギーを供給することを優先している。デンマークでは長期的戦略を重視した」と語った。311を教訓にするなら本格的に長期的戦略へ移行すべき。政治家は本来、そのために存在しているはずだ。（TH）

RECORD THE POWER OF THE PEOPLE!

2012年11月21日(水)
首都圏反原発連合『脱原発「あなたの選択」プロジェクト』開始

原発ゼロへ舵をきった民主党野田政権による、突然の衆院解散。衆院選に向け、脱原発議員を多く国会に送り込む世論喚起のために、各政党のエネルギー政策を比較したフライヤーとポスターの配布と街宣を開始しました。

フライヤーは42万枚配布することができましたが、民主党は大敗し、のちに原発を推進することになる、自民党安倍政権が誕生しました。反原発連ではフライヤーによる情宣活動は初めてでしたが、これをきっかけに、リーフレットの発行がデモ活動と両輪の重要な活動になりました。

編集後記

謹賀新年。今年もよろしくお祈りします。安倍政権の独裁的政治に憤りながらの2019年幕開けですが、今年は統一地方選、参院選が控えています。これをチャンスとして、様々な人々の連携で原発ゼロ政権を誕生させましょう。

仏のアストリッド計画凍結、トルコの原発建設計画の断念など、世界的にも原発産業が行き詰まり政府の計画が暗唱に乗り上げる中、経産省は新高速炉計画を加速し、さらに新型小型原発の開発を進めると発表！国民意識、世界常識と乖離した政府に、今年も抗議を続けましょう！